

授業名：ひみつきち作り

前編

本体を組み立てる

学校名：松本市立中山小学校

学年・人数：3学年 16人

日時：10月21日 9:00～12:00

講師：信州やがいたいけん楽校ぶらす

主な活動場所：喜源治の森

先生のねがい・ねらい

- ・こどもの願いである、上に登れて安全な秘密基地作りの支援をお願いしたい。
- ・安全上大事なところは講師の方で確認していただき、子ども達でできる部分については子ども達なりに考えながら作業できるよう支援いただきたい。

事前の計画

今日やることの説明と注意 →畑に下ろした資材を協力して現地に運び上げる。子ども達が運び上げている一方で、講師は基礎部分の骨組を作る。運び上げたらロープワークやボルダリング作り。形ができるところまでを目標にのんびり作業する。

服装と持ち物

長袖運動着、紅白帽子、軍手、ヘルメット、水筒

準備するもの

団体：はさみ、コンパネ、脚立、竹、木片、ロープ 他資材

学校：ロープ、旗、脚立1台、救急セット、トイレットペーパー

気を付けること

講師の注意をよく聞く。竹の上には絶対に乗らない（転がって転倒する）

当日の様子

- 【実施概要】 総合的な学習の時間「『上に登れる安全なひみつきち』作り」を講師の方に支援していただく。
きちの土台となる大事な部分は講師の方に行っていただき、床の固定などは子どもが作業する。この日は3階まで作る。

【実施状況】



ロープを使ってちょうちょう結びの練習をする。



使う資材を作る場所までみんなで運ぶ。



固定で使うロープを「ひろ（両手を広げた長さ）」という単位で切るという仕事を行う。



講師の方二人が、ロープでしっかり固定できるように竹を支える。



ちょうちょう結びで床を固定する。

🗨️ 子ども達の感想

○最初は斜めになっている場所に「ひみつきちなんて作れるのかな?」と思っていたけれど、自分から積極的に手伝ったらちゃんと真っ直ぐできた。楽しかった。

○最初は「ひみつきち作るのって無理かな」と思っていたけれど、いろんな人に意見をもらい、最終的に降幡さんと中村さんに教えてもらってひみつきちを作れることができた。

🗨️ 先生方の振り返り

4月から計画を進めてきた「ひみつきち作り」がいよいよ製作に入り、子どもも私もとても嬉しかった。子どもたちが自ら進んで体を動かし、協力する姿が見られ、子どもの成長を感じた。

「ひみつきちなんて作れないと思っていたけれど、諦めなかったから作れた」と経験を通して学ぶ大切な学習になった。

今回は3階までしか作れなかったが、次回完成させ、夢が叶い、そのひみつきちからどんな学習が広がっていくのか楽しみである。

授業名：ひみつきち作り
後編
遊具の取り付け

学校名：松本市立中山小学校
学年・人数：3学年 16人
日時：10月28日 9:00～12:00
講師：信州やがいたいけん楽校ぶらす
主な活動場所：喜源冶の森

先生のねがい・ねらい

- ・子ども達が考えた遊具がうまく付けられるように支援をお願いしたい。
- ・友達の良いところを見つけ、協力し、一緒に考えながら作業ができるといい。

事前の計画

今日やることの説明と注意 →ツリーハウスを仕上げ、遊具作りに取り組む。
結びつけたり、取りつけたり、自分達で考えてきた遊具を作ってみる。

服装と持ち物

長袖運動着、紅白帽子、軍手、ヘルメット、水筒

準備するもの

団体：遊具の素材（形になっていない状態で準備する）
学校：ロープ、旗、脚立1台、救急セット、トイレトペーパー

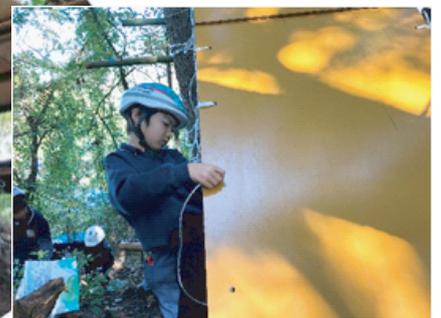
気を付けること

講師の注意をよく聞く。講師がOKするまで上には登らない。上では押さない、ふざけない。

当日の様子

- 【実施概要】 総合的な学習の時間「『上に登れる安全なひみつきち』作り」を講師の方に支援していただく。
この日はきちを4階まで完成させるとともに、ボルダリング作りや滑り台の固定をする。

【実施状況】



ボルダリング作りを行う。二人組みになって板と木材のそれぞれの穴の位置を合わせ、ロープを通し、ちょうちょう結びをする。柱に固定する。

滑り台もちょうちょう結びで固定する。



16名全員が乗っても崩れない、4階建てひみつきちが完成する。



子ども達の感想

- 3階建てが4階建てになってびっくりした。ブランコ、滑り台、ボルダリング、ターザンロープを作ることができてよかったし、すごく楽しくできてよかった。
- みんなでひみつきちで授業をしたり、お弁当を食べたりしたい。
- ひみつきちでいっぱい遊びたい。
- ひみつきちにお家の方や先生方、他の学年、地域の人を招待したい。



先生方の振り返り

夢だった「上に登って中山のすてきな景色が見えるひみつきち」がやっと完成し、前回に増して喜びと達成感を味わった。諦めず、チャレンジし続ければ夢は叶うということ子どもも私も学んだ。できたひみつきちで授業や工作、火起こし、お弁当を持ってきて1日過ごす、お楽しみ会をする、他の人達を招待するなどの願いが子どもから生まれた。子どもたちの希望を一つひとつ叶えていきたい。

授業名：ひみつきち作り きちとのお別れ

学校名：松本市立中山小学校
学年・人数：3学年 16人
日時：11月18日 9:00～12:00
講師：信州やがいたいけん楽校ぶらす
主な活動場所：喜源治の森

先生のねがい・ねらい

充実した活動ができたので、最後に思い出作りをする。
次の活動への意欲になるといい。

事前の計画

- ・ ツリーハウスで遊ぶ → 撤収作業（順番にヒモを外して下におろす）
- ・ 振り返りの意見感想 → これからどうしたいか意見を出し合う

服装と持ち物

長袖運動着、紅白帽子、軍手、ヘルメット、防寒着

準備するもの

団体：はさみ、カッター
学校：ゴミ袋 組の旗

気を付けること

外す手順を守る（講師の指示を聞く）。竹を運ぶ時は軍手を外す。
決まった人以外は登らない。降ろす時には勢いが付くので大人が手を添える。

当日の様子

【実施概要】 総合的な学習の時間「『上に登れる安全なひみつきち』作り」を講師の方に支援していただく。

この日は「きち」で講師の方へのお礼の会と最後のひみつきち遊びを行い、その後「ひみつきち解体作業」を行う。

【実施状況】



講師の方へお礼の会を行った。このお二人と出会えたおかげで、子どもたちの大きな願いであったひみつきちを完成することができ、たくさんの活動をすることができた。子どもたちはその感謝の気持ちをメッセージとプレゼントで現した。自分のメッセージを読み、カードに加えて喜源治にある物を材料にして作った竹の箸やお皿など、一人ひとり工夫したプレゼントを渡した。

講師の方にスラックラインやターザンロープを付けていただき、最後のひみつきち遊びをみんなで楽しんだ。





解体作業は、固定していたロープを一つひとつ解き、資材を平地まで運び、4階建てのひみつきちを自然に返した。

☺ 子ども達の感想

- 今まで遊んでいたきちがなくなることは悲しい。でも、この場所にみんなで来たい。
- もっと遊びたかったけど安全のためなら仕方がないと思った。
- 壊すことが決まっていたから、それまでにやりたいことをいろいろできたのかもしれない。
- 次は第二のひみつきちを作りたい。
- 喜源治マップを作りたい。

☺ 先生方の振り返り

ひみつきちを自然に返すことで、子どもたちは落ち込むのではないかと考えていたが、表情は晴れ晴れとしていた。それはきっとひみつきちで、やりたいことをすべて叶え、心から楽しみ、満足しているからだと思った。

また、ひみつきちでの活動での子どもたちの言動や行動などからたくさんの成長を感じた。こんなにすてきな経験をさせてくれたひみつきちに心から感謝している。

夢のひみつきち作りを終え、子どもたちは次にやりたいことを見つけた。「終わりは始まり」だと感じた。その新しい気持ちを大切に今後も喜源治を拠点に活動していきたいと考えている。

◎ 講師の振り返り

骨組みなど、安全に関わる場所は講師の方で組み立て、機材の運搬や、床の固定、ボルダリングづくりなど、子どもたちでできるところはどんどん作業をしてもらいました。

竹、コンパネ（コンクリートパネ）等沢山の機材運搬は、急斜面を上ったり下ったり大変だったと思います。

蝶々結びの練習後全員参加で、ツリーハウス本体、すべり台、ボルダリング作り、そしてブランコ、ターザンロープ、公園の遊具とは別次元の手作り秘密基地、最初は怖くて遊べなかった遊具も、友達のあそび方を見てチャレンジ！出来た時の嬉しそうな笑顔が印象的でした。

講師としては、使用期間中は製造者責任があり、解体時は組み立て時以上に危険が伴う作業だったので緊張しましたが、子どもたち自身がお互いに声を掛け、協力し合って無事活動を終えることができ、ホッとしました。

数か月に及び、子どもたち自身で企画、計画、そして全員協力して完成した事は、達成感、満足感につながった事と思います。使用期間中も、何回か授業や色々なイベントを秘密基地で行ったようで、終了時には子どもたちがずいぶん遅く映りました。自然の中で活動する事がいかに有意義なことか、改めて実感した秘密基地作りでした。

子どもたちのほじけるような笑顔にエネルギーをもらいました。今回の企画から実施に当たっては、先生の熱意があったからこそ実現できたものと思い、感謝いたします。

◎ コーディネータから

急な斜面を登り降りしながら資材を運ぶところは、さすが日頃から坂道の登下校で足腰を鍛えている中山の子ども達だなど思いました。

はじめは上の階に行くのも、滑り台を下りるのも怖がっていた子が多かったですが、一人、また一人と友達ができるようになるのを見て、自分も自分もと挑戦をしていました。怖さを克服したあとの自信にあふれた笑顔が素敵でした。

組み立てや解体には様々な作業があって、それぞれが自分にできる作業を見つけて取り組んでいました。金具類は一切使っていないため、コンパネと竹を回収し、ビニールひもを残さず拾い集めた後は、森は元の姿に戻りました。

ひみつ基地にはわくわく感がありますが、場所の確保や安全性など難しい課題もあります。今回は学校から歩いて行ける距離に場所を貸して下さった地元の方がおり、ノウハウを持った講師がいて楽しい活動が実現しました。山に近い学校の良さが活かされた体験だったと思います。(中)